

数字で見る図書館の一年

平成24年度図書館事業実施概要から

1. 利用状況

(1) 開館日数と貸出冊数

個人貸出冊数 1,809,676 冊
市民1人あたり 4.3冊 (人口 420,496人)
一日平均貸出冊数 5,838冊
(平均開館日数 310日)

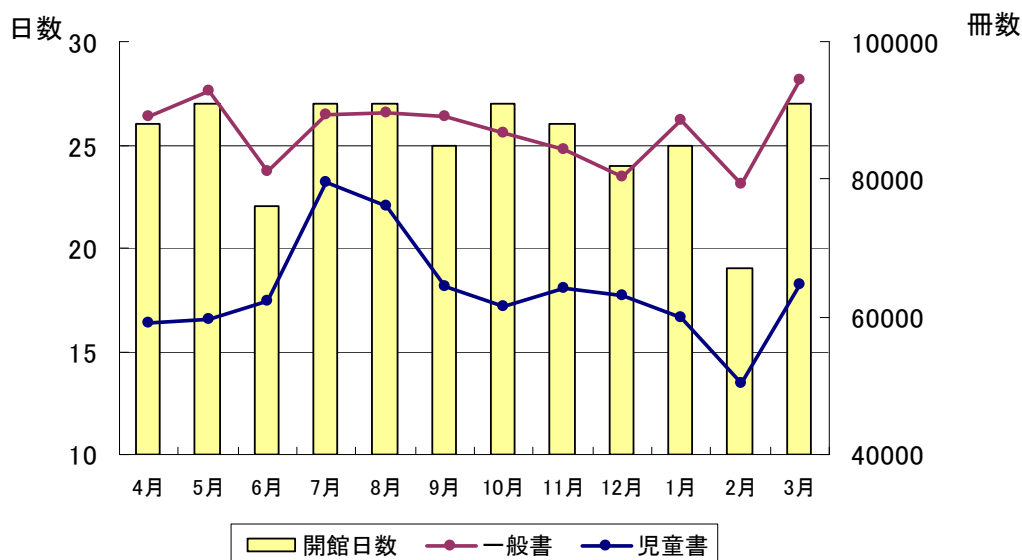
平成24年度は、個人貸出冊数が23年度と比較して79,010冊減(前年比-4.2%)となりました。冊数が減った原因のひとつとして、24年度の開館日数が23年度に比べ、少なかったことがあげられます。

24年度における全館の開館日数の合計は、図書館システムの更新や、とやま駅南図書館のフロア工事にもともなう休館があったため、7,467日と23年度に比べ、約260日少なくなっています。(自動車文庫を除く)

このグラフは、昨年度の開館日数と貸出冊数の推移を月別に表したものです。棒グラフは全館の平均開館日数を、折れ線のグラフはそれぞれ一般書と児童書の個人貸出冊数を表しています。

1年を通してみると、開館日数にあわせて貸出の冊数が変化していることがわかります。本館と富山地区の分館で蔵書点検を行った6月や、図書

【平成24年度月別開館日数と貸出冊数(全館)】



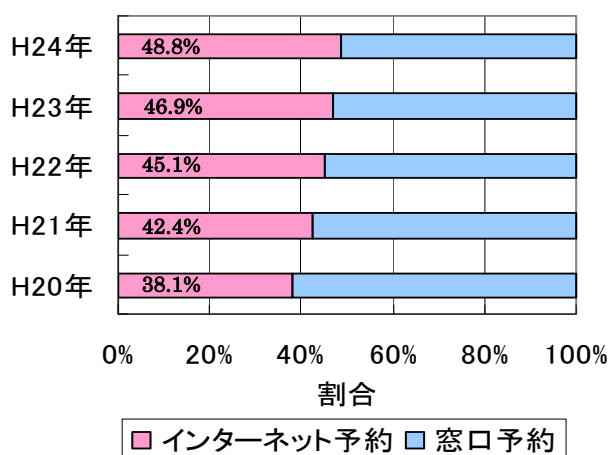
館システムの更新を行った2月は、貸出冊数が少なくなっています。また、小中学校の夏休みと重

なる7・8月は児童書の貸出冊数が多くなっています。

(2) 予約サービスの変化と予約状況

平成24年の予約件数は全体で235,560件でした。そのうちインターネットでの予約件数は115,064件で、全体の約48%にあたります。このグラフは過去5年間の予約件数における窓口予約件数とインターネット予約件数の割合を表したものです。

【インターネット予約割合の推移】



グラフの値からわかるように、予約件数全体に対するインターネット予約の割合は年々増加しています。

また、図書館システムの更新にともない、今年の2月から予約方法が新しくなりました。従来の予約方法とあわせて、上下巻など複数の図書に優先順位をつけて予約する<読みたい順>予約や、図書館内にある検索用端末からの予約が可能になりました。また、予約連絡用のメールアドレスについても、自宅のパソコンと携帯電話など、複数のアドレスに予約連絡メールが送信できる設定が追加されました。

新しい予約機能や連絡機能が追加され、便利になったことで、窓口以外での予約件数が、今後さらに増加していくことが予想されます。

2. 平成24年度の沿革

富山市立図書館にとって、平成24年度は変化の多い1年となりました。ここでは、その中でも主要な出来事をご紹介します。

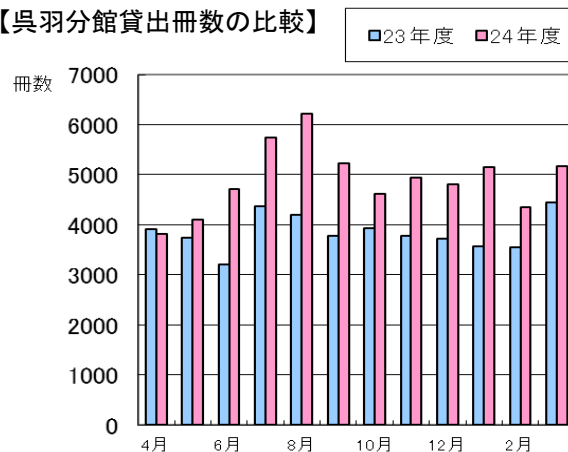
(1) 新・呉羽分館オープン

平成24年5月15日に、呉羽分館が新呉羽会館1階に新築移転しました。

新・呉羽分館 外観



【呉羽分館貸出冊数の比較】



館内は開放的な空間となっており、子ども向けに作られた背の低い書架や、足を伸ばしてゆっくりと本を楽しむ畳のコーナーなどがあります。「利用しやすくなった」という声が多く聞かれるように、移転前よりも貸出冊数は増加し、呉羽分館の利用が増えていることがうかがえます。

(2) 図書館新システム稼働開始

平成 25 年 2 月に図書館システムが新しくなりました。システムの更新にともない、図書館のホームページがより便利になりました。また、図書の検索や予約にも新しい機能が追加されています。

①図書館ホームページのリニューアル

新しくなったホームページには、以下のサービスが追加されました。

- ・貸出期間の延長
- ・メールアドレスの登録、変更
- ・メールマガジンの配信 など

インターネット予約が増加している事などから、今後ホームページの利用がさらに多くなることが期待されます。

②次世代OPACの導入

次世代 OPAC を導入したことで、図書館の検索機能がさらに使いやすいものとなりました。特別コレクションの電子画像や明治期の富山市街図など、本や視聴覚資料以外の情報も同時に検索できるようになったため、従来よりも広い範囲から簡単に必要な情報を探すことができます。

新しい検索画面
電子画像のデータも一緒に検索できる

	1 新川縣下第九大区四小区新	作図者 富山市 形態 H:99cm W:168cm
	2 新川縣下第十大区壹小区新川郡富山西町	作図者 富山市 形態 H:101cm W:133cm 製作年代 明治時代 地域 富山市内
	3 西田地方村字長割	作図者 富山市 形態 H:81cm W:38cm 製作年代 明治時代 地域 富山市内

蔵書検索で<古地図>を検索した時の、検索結果一覧

(3) こども図書館オープン

平成 25 年 3 月 23 日、CiC ビル 4 階に「こども図書館」がオープンしました。

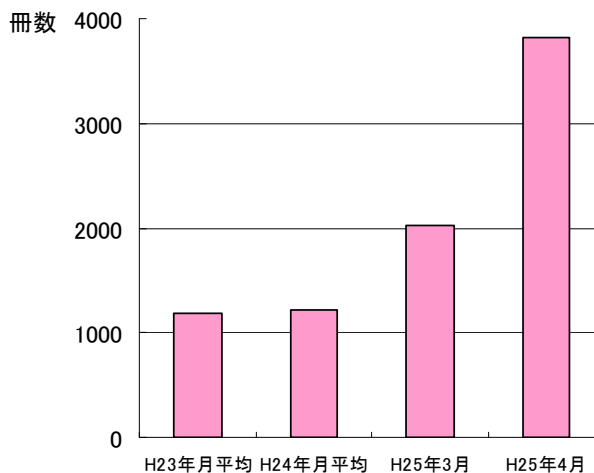


こども図書館 館内

こども図書館は、市内にある他の図書館とは異なる特徴を持った施設です。館内には、児童書の他に、マンガや子供向けの雑誌、体を動かして遊べるゲームコーナーなどがあり、子育て中の親子がゆっくり楽しむことのできる空間となっています。また、1 日 2 回のおはなし会や、工作の時間、クイズ大会など、子供向けの行事もたくさん行われています。

以前は駅南図書館の一般書やビジネス雑誌が多く貸出されていましたが、こども図書館の開館後は、児童書の貸出が急増しています。会社帰りのビジネスマンや学生の利用とあわせて、今後は小さい子どもや親子連れの利用も増えていくことが見込まれます。(本館 山木)

【駅南図書館・こども図書館の児童書貸出冊数】



※「みんなに本を地域に図書館を 図書館事業実施概要」は、当館ホームページより、「運営情報・方針」で最新版を公開しています。なお、本館参考図書室にも冊子版を所蔵しています。

レファレンスあれこれ

Q. 富山から東京までの列車の所要時間は、どのように推移したかを知りたい。

A. 2015年春、富山県に北陸新幹線が開通する予定である。富山から東京までの所要時間は2時間7分になり、現行の3時間11分よりも約1時間短縮されることになる。今回は、富山～東京間の列車の所要時間が明治～昭和にかけてどのように推移したのかを探ってみた。

1. 明治 —鉄道の開通—

日本で初めて鉄道が開通したのは、明治5年(1872)9月の新橋—横浜間である。富山県では、明治30年(1897)の黒田(現・高岡市)—福野間で開業した中越鉄道が最も古い。官設の北陸線は、「鉄道敷設法」(明治25年)に基づき、敦賀から延長され、明治31年(1898)11月1日に金沢—高岡間が、32年3月20日に高岡—富山間が開通した。(『近代史研究 第22号』(富山近代史研究会1999)、『とやま近代化ものがたり』(北日本新聞社1996)による)

『富山地方鉄道50年史』(富山地方鉄道1983)には、「運転回数は1日6回の発着にすぎなかったが、ここで初めて鉄道によって関西直結を果し、米原を経由すれば24時間で東京にも通じることとなった」と記載されている。

富山県の鉄道に関する記録が網羅されている『鉄道の記憶』(桂書房2006)には、明治41年(1908)に富山—新橋間に直通列車が開通した記事と発着時刻が紹介されている。(「富山日報」記事より)

午後7時7分富山発	翌日午後5時20分新橋
午前9時新橋発	翌日午前9時45分富山
午前5時35分富山発	同日午後9時47分新橋

この記録によると、所要時間が16～25時間とかなり差があったようだ。

2. 大正 —北陸本線全線開通—

路線は、明治41年11月16日に富山—魚津間が、43年(1910)に泊までと順次延長され、大正2年(1913)4月1日には米原—直江津間が全通した。

『鉄道の記憶』には、この結果米原経由で大きな迂回を要していた東京方面への距離・運賃は大幅に縮減し、所要時間もそれまでの20～21時間台から14時間台にスピードアップされたとある。

3. 昭和 —所要時間の大幅な短縮—

『富山県史 現代』(富山県1983)には、富山から上野間の所要時間短縮の推移がグラフで示されている。

昭和20年(1945)	12時間10分、
昭和40年(1965)	6時間55分、
昭和53年(1978)	5時間45分

所要時間は、昭和20年から53年の33年間で、半分以上に短縮されている。

その後、平成9年(1997)のほくほく線開業や列車の速度が上がったことにより、さらに所要時間は短くなってきた。

4. 旧舎・旧線について

明治32年開業当時の富山駅は、現在の田刈屋に仮設された。しかし、9年後の明治41年には現在の位置で新しい富山駅が開業し、旧駅は廃止された。呉羽山の北側を迂回していた旧線は、『日本図誌体系 中部2』(朝倉書店2011)掲載の明治34年測量の地図で確認できる。また、『ふるさと富山市』(郷土出版社2009)や『写真集明治大正昭和富山』(国書刊行会1978)、『北陸線写真帖』(北國新聞社2007)等に、旧駅や明治末期の富山駅の写真が掲載されており、当時の様子をうかがうことができる。

(本館 牧田)